市民文芸

短歌

令和五年度
阿南市春季短歌誌上大会　選

特選

子供の死を青白き顔で語りいるムンクのような　吉永賀代子
風の音纏い
ちぎり絵の和紙ふうわりと毛羽立ちてピンクの　亀島賀陽子
うさぎ台紙に踊る
夫が語る遮光土偶のうんちくがティーに溶け込　陶久　陽子
む東京の朝
ツーピーと先遣隊か初ツバメ明日から田んぼも　森　マスミ
水を入れます
今年もしだれの梅の大木を巡りて七十路八十路　島　ちどり
の笑顔
大谷くん八十路の私を鷲掴みハッスルプレーも　青木　弘子
可愛い顔も

入選

米寿坂紅もコロンも要りません心美人で生きる　西田　修身
老女に
枯れ草の下から萌え出す和草に心浮きたつ春の　澤田　素子
到来
肩寄せて下校した孫五年から少し距離あく男友　理和倭己子
だち
一円玉浄財箱に入りきらず拾う幼を包む春陽は　宮﨑喜美子
生きることそれが供養と思いたりさくら吹雪の　小畑　定弘
貴方の墓よ
春うららおれおれ詐欺の電話なりＮＯの返事に　松江　敬子
「このくそばばあ」

俳句

阿南市俳句連合会　選

雨を抱き色を重ねて七変化　柏木　暁代
網戸ごし猫のごろりと大あくび　岡本　隆子
曇り空それでも外さんサングラス　藤井李華女
ほととぎす山遠けれど聞こえ来る　小西　晴美
雨の日の少し早めの夏灯　浜田百合子
板の橋真中よく揺れ蛍狩　島　玲子
夏菊の輪をもて首脳祈念碑へ　庄野　早苗
母の愛未だ脳裏に冷やっこ　谷中喜代子
本尊へ石のきざはし薫風裡　石井　政子
病む友の育てサボテン花三つ　廣浦　保子

川柳

阿南川柳会　選

弁解をしながら野菜おすそ分け　佐藤つたえ
これ捨てる決断すれどまだ迷う　篠原　良子
ローン完ウフフこれから城主さま　鈴木レイ子
諭吉さん添えて下さいボーナスに　多田紀久代
安売りに走る元気な妻の杖　西田　修身
エンディングノート書くにはまず正座　橋本　征介
まとめ買い安く買ったが期限過ぎ　若木アヤ子

一般応募

八十路もう口だけで跳ぶケンケンパ　秋川　和子
朝靄へ紫陽花冴えた雨上がり　島尾美津子
この駅で聞きし兵士を送る歌　泰地　茂美

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社　選

夏夜涼感

夜熱依然午熱同　松原　伸夫
出房小立月明中
陰陰樹影無風處
時覺微涼脚下蟲

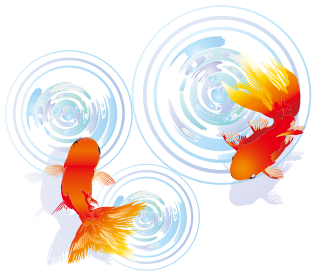
夜熱依然として　午熱に同じ
房を出でて小立す　月明の中
陰陰たる樹影　風無き処
時に微涼を覚ゆ　脚下の虫

牧野富太郎博士を稱う

新種命名山野行　原　美智子
幾多標本偉勲明
清貧獨學耐艱難
誰謂天眞草木精

新種の命名　山野の行
幾多の標本　偉勲明らかなり
清貧独学　艱難に耐う
誰か謂う　天真　草木の精なりと

烏骨鶏の雛

鶏雛藹藹寄身行　城萬　航也
嘴啄尖尖平穏鳴
何以人間无見子
覓糧炯眼可同精

鶏の雛藹藹と　身を寄せて行く
嘴は啄むに尖尖ながら　平穏に鳴く
何を以てか人間　子を見ること无き
糧を覓むる炯眼　同じく精しくすべし